

# ライフセーバーはホモ・ルーデンス 「勝つことではなく、勝ちスタイルにこだわりたい」



## 鯨井 保年

YASUTOSHI KUZIRAI



**PROFILE**  
鯨井 保年 くじらい・やすとし  
1968年1月23日生まれ。愛知県出身。身長180cm、体重78kg。大学時代に水泳・トライアスロンを通じて海難事故から人命を守るライフセービングと出会う。砂浜に置かれたチューブを取り合うビーチフラッグス種目では、赤ちゃんのハイハイをヒントに考案した「鯨井式スタート」で国内外のトーナメントを制覇し続けている。

今夏にオンエアされたPS『ガンバール』のCMで、ビーチフラッグスの華麗な技とまぶしい肉体美を披露してくれた鯨井保年さん。ライフセーバーの第一人者として活躍する傍ら、国内外で行われるライフセービング大会のビーチフラッグス部門で優勝を重ね、96年にはライフセーバー・オブ・ザ・イヤーの栄光に輝いた。今回は、ナムコ・ワンダーパーク港北店のバックマンスタジオで、ガンバレットライブ『タイムクライシス2』『プロップサイクル』『ファイナルハロン』『ラビッドリバー』と立て続けにチャレンジ！「今、ゲームは体力だね！」と言いつつも、初挑戦の『ラビッドリバー』ではいきなりSランクを獲得し、「戦う男」の威力を見せつけてくれた。

### 戦うことは謙虚であること

ゲームを終えての感想は？

鯨井 最高だね！さすがにちょっと息が切れましたけど（笑）。思わずゲームの中の世界にググッと入り込んでしまいました。ビーチフラッグスの大会前はよくゲームセンターに行くんですよ。ゲームに集中すると無心になれるので、不安な気持ちも忘れてしまつて。僕の場合、集中すると雑念が吹っ飛んでリラックスできるんです。ゲームでもビーチフラッグスでも、勝負事は自分の世界に入っちゃったモン勝ちですよ。運とかタイミングとかいろいろ必要な要素があつて勝ち負けが決まってくるんですけど、勝つためには「なりきり」が肝心だと思います。

なりきるためのコツってあるんでしょうか？

鯨井 何のために勝つたいのか、勝つたら何がしたいのかを常に考えながら練習や試合に臨む。つまり、戦いのモチベーションをしっかり持つということ。勝負の世界では、心に一点でも曇りがあると運も味方してくれないもんなんです。金とか名誉とか欲ばかりかいて勝負すると、絶対に追い風は吹かない。特に自然を相手にしていると、そういうことを強く感じます。

鯨井さんが勝つことに執着する理由は？

鯨井 日本では認知度の低いライフセービングをもっと普及させたいということに尽きます。ビーチフラッグスの大会で優勝すれば取材を受けることも多くなるので、ライフセービングの必要性をアピールできるチャンスが広がりますよね。そういうモチベーションで競技に参加します。ま、ビーチフラッグスは、ライフセービングの営業ツールみたいなものです。僕の力は微々たるものかもしれないけど、どこまでできるか挑戦してみたいんです。

勝つことが最終目的ではないということですか？

鯨井 その通りです。勝つ目的がはつきりするのと、自ずと自分のやっていることがすくなくクリアになって、何でもないことに感動したり感謝したりできるようになります。ビジネスにしろ遊びにしろ、勝つことだけにこだわっている人、人を蹴落そうとしたり嫉妬心で支配されて結果的には自分で自分の首を絞めることになる。僕はそうなりたくないんです。勝つことではなく、勝ちスタイルにこだわりたいですね。勝負するからには、カッコよく勝ちたいですから。

鯨井さん流のカッコよさは？

鯨井 謙虚であること、かな。

戦うイメージとは対極的な感じですが、いや、僕にとつては同じことなんです。コイツが憎いとか、アイツがなくなれば一番になれるとかいう気持ちで戦って勝利しても嬉しくないじゃないですか。生まれた時から入それれ状況や環境は違つんだから、嫉妬したり、できない言い訳を考へてるのは、はつきり言つて時間のムダ。むしろ、謙虚な気持ちでいれば、勝つた時に周囲の人に感謝できるし、より自分を高めることまでできると思います。

### ライフセービングを普及させたい理由は？

鯨井 一言で言えば、外国にバカにされたくないから。ロスへ行ったとき、日本は海に囲まれた環境にあり、宗教とか武道とか崇高な部分も多いのに、何故ライフセービングが普及していないのか。経済大国で金銭だけはいくらしてやるくせにと言われたんですよ。反論できない自分が悔しかった。アメリカやオーストラリアでは町の消防士みたいなななくてはならない存在なのに、日本ではまだその必要性が認識されてないんですよ。

確かに海やプールに行つても、「首から笛を下げて高いイスに座ってる人」くらいの認識しかないです。お恥ずかしい話ではありますが、

鯨井 結局、その程度の認識なんですよね。だから、僕がどんな小さなことでもいいから普及に貢献できればいいなと、海をはじめ自然に対する考え方も、日本と外国では全然違つんです。例えば、海水浴に行つて浜辺でビールを飲みますよね？

ええ、最高にウマイですよ。鯨井 その受け答えからして違つたんですよ。

日本ではそれが当たり前になつていますが、外国に同じ質問をしたら「えっ本当に！」ってびっくりされます。飲んだら海に入らない、これは基本です。酔っぱらって海に入つたらどうなるかわからない、きちんと考えておかないと。自然は本当に恐いんです。そういう意識が日本人には足りないというのか、皆無だと思えます。そりゃあ、大海岸を前に太陽の下で、ビキニ姿の女の子見ながら飲むビールはウマイですよ。でも、溺れて死んだら女の子もいないし、ウマイと感じることもできないですからね。

外国にバカにされたくないというのは日本人であることに強い誇りを持っているからこそですよ。

鯨井 もちろん！お前は日本人かと聞かれた時に、誇りをもって「イエス」と答えた日本人の男って、素朴でカッコイイと思うから。でも、外国では日本人の男性はモテないんですよ（笑）。女性はモテるんですけどね。男はホント、立つ瀬がないです（笑）。

将来ライフセーバーの道へ進みたいと夢見る若者へのアドバイスがあれば？

鯨井 資格的には18歳以上で実技、筆記の講習を受ければOK。泳げない人でも、エレメントリー・ライフセーバーといって放送係やゴミ拾い係などから始められます。海が好きなら、自然が好きなら誰にでもチャンスはありますよ。

### 心と体で楽しめる遊び、そして海へ

『ガンバール』のCMに出演して、いかがでしたか？

鯨井 いや、すごくいいトレーニングになりました（笑）。ほくにとつては一石三鳥くらいいい体験でした。スタッフもいい人ばかりでリラックスできたし、モデルの子はかわいいし、食いもんはうまいし、言つことナシのシゴトでした（笑）。

普段はどんなスケジュールで一日を過ごしているんでしょうか？



鯨井 トレーニングが中心ですが、毎日欠かさずというわけではないです。休むのもトレーニングだし、遊ばないと生きていけないし（笑）。神奈川の平塚海岸でサーフィンもやります。僕にとつてサーフィンは、ごはんを食べると一緒。トレーニングでもあり、遊びでもあり、なくてはならない存在です。まあ、極端に言えば仕事も遊びですから。決してぶざけるという意味ではなく、心と体で楽しめるのは、それが全部遊びなんです。それには、何がしたいのか、何のためにやっているのかをきちんと認識してなきゃいけないんです。

完全オフの日は？

鯨井 オタクDJ（笑）。音楽が好きなので自宅でもミキサーをまわしています。ソウル、ヒップホップ系、それにビートル音楽も好きです。弾くのは無理だけど（笑）。

今後の目標を教えてください。

鯨井 今のところ、来年開催される「ハワイ・インターナショナルオーシャンチャレンジ」と「全米サーフ・ライフ・セービング選手権大会」の2本に照準を合わせて活動しています。目標はもちろん優勝です。将来的には、海に接しながら自然のことをもっと勉強して、ライフセーバーとしてだけでなく、ウォーターマン、ナラチュウリストに一步でも近づければと思っています。海の有り難さ、海への敬意を常に感じられる生活をするのが夢です。いつも海を感じていたい。それだけです。